

松江 宝塚 姉妹都市提携50年記念

8年ぶり テニス交流



女子ダブルスで試合が終わり、お互いの健闘をたたえ合う松江市のペア（左）と宝塚市のペア

男女50人 ネット挟み再会に笑顔

姉妹都市提携を結んでいる松江市と兵庫県宝塚市のテニス協会が21日、提携50周年を記念し、交流戦を松江上市乃木10丁目の松江総合運動公園陸球場で開いた。交流戦は8年ぶり。両協会の男女約50人がネットを挟んで再会を喜び、互いに息の合ったプレーを披露して交流を深めた。

(松本直也)

交流戦は、両市が1996年に姉妹都市提携を結んで30周年となった97年、両協会がスタート。翌年から両市が毎年、スポーツ交流事業として会場を持ち回りして続けたが、競技の入れ替えてテニスが外れ、2009年を最後に途絶えた。今年、提携50周年を迎え、宝塚市テニス協会の奥村通雄会長が「久々に一緒にやろう」と提案し実現した。

参加者は「久しぶり」とあいさつを交わし、男女のダブルスと混合ダブルスの3種目で対戦。意地がぶつかり合い、激しい打ち合いを展開する場面もあった

が、試合後はお互いの健闘をたたえ合ったり、島根の観光地を紹介したりして和やかに過ごした。初めて参加した宝塚市テ

街角 トピックス

松江 ◆特殊メガネ使い飲酒運転体験

特殊なメガネを使った疑似飲酒運転体験ブースがこのほど、松江市野原町の道の駅本庄に設けられ、体験者が飲酒運転の怖さを再認識した写真。

飲酒運転根絶を呼び掛けようと、県警が企画した。体験者は特殊ゴーグルを着用し、ふらふらになりながら、運転シミュレーターや直線歩行に挑戦。視界がゆがみ、思った通りに動けないことを



実感した。体験した米市上後藤2丁目のバス運転手南海和馬さん(63)は「飲酒運転は絶対にしてはいけない」と誓った。県警によると、飲酒運転事故は昨年17件発生し、3人が死亡した。今年1月には益田市内で飲

二ス協会の池澤美智子(69)は「テニスで他県と交流する機会は少ないので、よかった」と話し、松江テニス協会の出川修治長は「昔から知っている塚の選手が元気に参加していて、うれしかった」と